

令和7年度自己評価報告と令和8年度の基本方針について

世田谷区立多聞小学校学校関係者評価委員会の報告と提言を受け、自己評価と次年度の学校運営基本方針を以下にお示しいたします。

I 学校関係者評価報告書を受けた学校の回答

(1) 児童・保護者・地域アンケートについて

令和7年度も、「せたがや探究的な学び」と「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて、各教科・領域の指導において、探究的な学びのプロセスの定着を図るための研究を進め、中でも、「丁寧な振り返りから新たな問いを見出す」という点を重視して実践を重ねた。

○学習指導について（キャリア・未来デザイン教育の推進）

教師の指導の分かりやすさや丁寧さについては、タブレットを活用した指導を日常化させ、内容によって学習方法やまとめ方を選択できる場面も増やしている。活動の目的を十分に理解させたうえで、自己調整型の授業を取り入れたことなども高評価の要因と言える。一方で、学ぶことの楽しさや、自分の考えをもち、友達と意見を交流のよさについて、充実感を得られない児童が一定数存在していることが確認できた。考えを交流する時間を設けているものの、学びが深まっているという実感は得られていないことが顕著になった。特に自己調整型の授業で不可欠となる教師のファシリテート力と個々に必要なアプローチを向上させるための指導力改善を図る必要がある。

○体験的な活動による探究的な学びの推進

学校行事や体験的な活動を通して、友達と協力する楽しさや協力することの意義を学ぶ機会の充実については、運動会や学習発表会などの学校行事での児童の主体的活動が多かった点がポイントである。教師が決めたシナリオ通りに児童が活動するのではなく、自分たちで考えて計画し、主体的に作り上げる体験の機会となった。発達の段階に応じて、低学年から実行委員を立ち上げるなど、各学の自主的活動が形となって表れていることが確認できた。

体験的な活動については、地域の障害者施設との連携や、ボランティア団体やゲストティーチャー事業での体験活動、近隣の学び舎連携園との交流による関わり合いの機会を設けたことで、新たな知識を得て自然や多様な他者との共存に向けた学びを得ることができた。

○学校からの情報発信

学校だより及びホームページでの教育活動の発信を重ねた結果、数年来の課題であった学校からの情報発信についてのアンケート結果に変容が見られた。IT化されたPTAによる学校教育への支援や「たもラジ」をはじめとする広報活動に大きく支えられ、学校全体の情報発信に関する評価の改善を図ることができた。今後も家庭や地域への発信について課題意識を持ち続け、地域とともにある学校を目指す。

○読書（活字に触れる機会）と推進

児童及び保護者ともに図書館や家庭で読書（活字）に親しむことが十分ではないと感じていることが分かった。今年度は、図書館の時間以外の読書機会の確保が十分だったとは言えない。放課後や休日の習い事等で読書をする時間を確保できてない家庭も多い。朝読書の設定や学校運営協議会を中心とした読み聞かせ活動の実施など、学校での読書活動を促進させ、改善を図っていく。

○社会性の育成

「場の状況に合わせた行動を取ったり、家庭学習の進行と提出、持ち物の自己管理を自分で取ったりしている」で肯定的回答が低かった点については、各児童及び家庭の意識の差があると感じる。低学年から社会性を育成するための学校と家庭を積み重ね、児童が社会的自立を果たせるように、将来の姿から逆算した指導・支援を共有し進めていく必要がある。

(2) 重点目標について

○ 探究的な学びの確立

- 校内研究「自分を高めようとする丘の子ども」の充実は引き続き必要
- 校内研究を軸とした「せたがや探究的な学び」の確立と、課題解決的な学習の展開の継続
- 児童全員が自分に合う学習方法が選択できる機会（ICTの活用・自己調整型学習の実践）
- すべての児童を学びの土台に乗せる学級内支援（第一次支援）の日常化

○ 豊かな人間性の育成

- 認め合い、助け合い、学び合う児童の育成（協働的な学びの実践）
- 自己肯定感・自己有用感の醸成（学習場面での成功体験と相互理解）
- 学校生活を楽しんでいると感じる充実感の育成（教育相談の充実）
- すべての児童に居場所がある、安心して活動できるための相互理解と学級・学年団経営
- インクルーシブ教育の推進（ひだまり学級児童の交流及び共同学習と理解啓発の授業）

○ 健やかな身体の育成

- 日常的な健康教育の推進（すくすくタイム・すくすくもりもり週間）
- 丘の子ベーシックをはじめとする体育教育の充実（効果的な導入）
- 安全に配慮した体育科の指導技術の向上（教員の実技研修と実践）

2 令和8年度教育課程編成における学校の基本方針

(1) 教育目標及び重点目標を達成するための基本方針

令和8年度世田谷区最重要教育課題である『キャリア・未来デザイン教育』の推進に向けて、以下の方法により実現を図る。

- ◎「キャリア・未来デザイン教育」の実現
- ◎多様性を重視しながら共に学び、共に育つ教育の推進
- ◎地域社会と協働した教育の推進
- ◎「学校における働き方改革」の推進

(2) 教育目標

- ① 3つの教育目標及び目標とする児童の姿の変更はなし。
 - ・考える子ども……すすんで学び、他者との交流を通して深めた考えを表現する子ども
 - ・助け合う子ども……他者の思いに共感し、思いやり、助け合う、人間性豊かな子ども
 - ・たくましい子ども……心身ともに健康で、粘り強く課題に立ち向かう子ども
- ② 目指す学校像「誰にでも居場所がある学校」を継続。

「個性の相互承認」を推進しながら「協働による実践」を繰り返し、それによって、集団活動での「安心感・達成感の蓄積」を進め「主体的行動・発信の維持・充実」を図りながら、充実を図ってきた。前述の4点を循環させることで、「自己肯定感及び自己有用感の醸成」を目指し、教育目標の具現化を図る。

(3) 重点目標

- ① 3つの重点目標に変更はなし。
 - 探究的な学びの確立：せたがや探究的な学びのプロセスを循環させ、誰一人取り残さない学びを実践する。
 - 豊かな人間性の育成：規律を重視し、個に応じた適切な指導・支援を行うことにより、児童の自己肯定感を醸成し、主体的実践意欲を育成する。
 - 健やかな心身の育成：自己の心身の状況について適切に把握する指導を行い、心身の健康増進に向けた取組を継続しようとする態度を育成する。